

農業技術情報

令和4年8月17日

ゆとりみらい21推進協議会指導部会

十勝普及センター十勝東部支所 015-572-3128
JA幕別町 0155-54-4118
JAさつない 56-2131
JA帯広大正 64-4591
日甜幕別原料事務所 54-2756
幕別町農林課 54-6605

各作物の生育・作業の遅速（幕別町8月15日）（ ）内は平年値（※春まき小麦は暫定）

作物名	遅速日数	生育および作業状況	生育期節
秋まき小麦	—	収穫始 7/24 (7/25) 収穫期 7/26 (7/29) 収穫終 7/29 (8/2)	
春まき小麦 (はるきらり)	—	収穫始 8/1 (8/7) 収穫期 8/6 (8/10) 収穫終 8/11 (8/13)	成熟期 7/31 (8/4)
馬鈴しょ	早 2	茎長 72.6 (71.9)cm 茎数 4.0 (3.9)本/株	茎葉黄変期 8/7 (8/9)
大豆	早 4	茎長 83.2 (73.5)cm 葉数 9.4 (9.8)枚 着莢数 486.9 (393.7)個/m ²	
小豆	早 4	茎長 61.1 (48.7)cm 葉数 12.0 (11.1)枚 着莢数 134.7 (106.6)個/m ²	
菜豆(金時)	± 0	茎長 56.2 (54.5)cm 葉数 4.1 (4.1)枚 着莢数 154.9 (177.2)個/m ²	
てん菜(移植)	± 0	草丈 74.7 (66.2)cm 葉数 28.5 (29.2)枚 根周 34.3 (34.5)cm	
てん菜(直播)	早 4	草丈 65.4 (57.1)cm 葉数 23.7 (22.4)枚 根周 27.2 (24.9)cm	
牧草(2番草)	± 0	草丈 83.2(82.1)cm、収穫始— (8/17)	
飼料用とうもろこし	早 2	草丈 301.4(295.8)cm 稈長 267.0(263.5)cm 出葉数 17.5(17.3)枚	雄穂抽出期 7/26(7/27) 絹糸抽出期 7/29(7/30)
ながいも(マルチ)	早 6	種子重 42.2(44.7)g 茎葉重 477.5(426.3)g いも長 52.7(51.5)cm いも重 516.7(324.6)g いも径 54.0(43.4)mm 首長 16.0(21.3)cm	
たまねぎ	早 7	球径 7.51(7.43)cm 収穫始 8/13(8/24)	倒伏始 7/26(8/2) 倒伏期 7/31(8/8)

畑作

<秋まき小麦>

高収量・高品質の小麦づくりは、適期適正は種からスタートします。根張りが良く強い株を均一に作るために、過湿時には種床準備は避けましょう。また、種子伝染性病害や土壌病害の発生リスクを最小限にするために土の移動に注意し、消毒済の購入種子を使用しましょう。

1 適正は種に向けて

- ・透排水性の劣るほ場では、心土破碎などにより耕盤層を改善しましょう。
- ・は種前に必ず土壌酸度を測定し、pH5.5以上を目標に酸度矯正をしましょう。
土壌サンプルの持ち込みと問い合わせは、JA・普及センターにお願いします。

・銅欠乏症状の出やすい土壌（腐植の多い火山性土等）は、銅の補給が必要です（Cu入り肥料等や堆肥の施用）。ただし、その際には過剰障害を防ぐため、土壌診断値に基づき、適正量を施用しましょう。

2 雑草対策

シバムギ・レッドトップ・ギシギシなど多年生雑草が多い小麦畑が散見されます。多年生雑草対策には耕起前の除草剤茎葉処理が有効です。

※処理方法・薬剤は「8月1日付技術情報」参照

<てんさい>

作況ほの生育は平年並（移植）～4日早く（直播）、根周は順調に肥大しています。

1 褐斑病の防除

今後も継続的な防除を続けてください（表1）。

2 ヨトウガの防除

老齢化すると薬剤の効果が下がるため、ほ場観察し、防除適期を逃さないようにしましょう（表1）。

表1 8月下旬の防除薬剤例（褐斑病・ヨトウガ）

対象 病害虫	農薬名	RAC コード	使用濃度 （倍）	使用時期 （収穫前）	回数 （以内）
褐斑病	グリーンダイセン 又は グリーンペンコゼブ	M3	500	21日	5回
ヨトウガ	ゲットアウト WDG	3A	2,000～3,000	14日	4回

3 葉腐病の防除

葉腐病は高温多湿条件で多発します。連作畑や根腐病発生ほ場では発生のリスクが高まるので、発生が見られたら8月下旬の防除時に同時防除を行ってください。

表2 葉腐病の防除薬剤例

農薬名	RAC コード	使用濃度 （倍）	使用時期 （収穫前）	使用回数 （以内）
モンカットフロアブル 40	7	1,000	14日	4回
リンバー顆粒水和剤	7	4,000	7日	3回

<馬鈴しょ>

高温多湿の影響で茎葉黄変期は平年より2日早く迎えました。

試し掘りでは早期に茎葉黄変が始まり既に枯凋期に近いほ場では1個重が軽い傾向ですが、まだ茎葉の青みが残っているほ場では1個重が重いなどほ場間差がみられます。今後の肥大状況を確認し茎葉処理を行いましょう。

1 塊茎腐敗、軟腐病対策

生育後半の疫病、軟腐病発生は塊茎腐敗の原因となります。収穫までの日数や病害の発生状況に応じて薬剤を選定し防除を継続しましょう。

表3 疫病の防除薬剤例(塊茎腐敗登録のある剤のみ抜粋)

薬剤名	使用濃度(倍)	使用時期(収穫前)	使用回数(以内)	RACコード	浸透移行性	効果の発現	対象病害(倍)		
							夏疫病	菌核病	塊茎腐敗
プロポーズ顆粒水和剤	750~1,000	7日	5回	40, M5	○ ×	予防治療	1,000	—	750~1,000
フロンサイドSC	1,000~2,000	7日	4回	29	×	予防	2,000	1,000	1,000
ランマンフロアブル	1,000~2,000	7日	4回	21	●	予防	—	—	1,500
レーバスフロアブル	1,500	7日	2回	40	●	予防治療	—	—	1,500

※○:浸透移行性が認められる ●:浸達性のみ認められる ×:認められない

軟腐病は高温多湿条件、または倒伏したほ場で多発しやすいです。収穫までの日数や病害の発生状況に応じて薬剤散布を継続してください。

表4 軟腐病の防除薬剤例

薬剤名	使用濃度(倍)	使用時期(収穫前)	回数(以内)	RACコード	効果の発現
バクテサイド水和剤	750~1,000	7日	5回	41, 25, M1	予防治療
銅ストマイ水和剤	600~800	7日	5回	25, M1	予防治療
マテリーナ水和剤	1,000	7日	3回	31, 25	予防治療
カスミンボルドー	500~800	7日	3回	24, M1	予防治療
スターナ水和剤	1,000	7日	5回	31	予防治療

※オキシリニック酸(RACコード31)に対する低感受性菌が出現している地域があるので、連用は避ける。なお、オキシリニック酸を含む農薬の総使用回数は5回以内。

※ストレプトマイシン(RACコード25)の総使用回数は5回以内(種いも消毒含む)。

2 収穫時の注意

- ・ 収穫作業は茎葉枯凋処理から7~10日後に、いもの皮むけが生じないことを確認して、晴れた暖かい日に行いましょう。また、茎葉枯凋後7~14日以内に収穫しましょう。
- ・ 収穫が早すぎると、収量、でん粉価の減少、皮むけなどの障害が発生する可能性があります。
- ・ 収穫が遅れると、黒あざ病菌核の増加や、腐敗、緑化等品質の低下が懸念されます。
- ・ 掘り取り後は腐敗を防ぐため、風乾を十分に行ってください。
- ・ 選別時や網コン等への投入時には、傷、打撲などができないように注意しましょう。

※茎葉処理方法については8/1付農業技術情報参照

<豆 類>

各豆類とも順調に莢伸長時期を迎え、害虫や菌核病・灰色かび病等の防除時期を迎えています。ほ場を観察し適期防除に努めてください。

1 菌核病と灰色かび病の防除(小豆、菜豆)

菌核病、灰色かび病の発生が確認または発生の恐れがある場合は、前回防除から10日間経過していなくても薬剤防除を実施してください。

※防除薬剤例は8/1付の農業技術情報及び「農作物病虫害防除基準」を参照

2 マメシクイガ・カメムシの防除(大豆)

マメシクイガについて、8月中旬までフェロモントラップで成虫は確認されていませんが、既に莢伸長始(2~3cm)に達していますので、まだ防除をしていない場合、ただちに防除しましょう。2回目防除は1回目の10日後に防除します。

カメムシはマメシクイガの防除適期と一致することから、同時防除が可能です(表5)。

表5 マメシクイガ・カメムシの防除体系例

回目	農薬名	RACコード	使用濃度(倍)	使用時期(収穫前)	使用回数(以内)
①	ゲットアウトWDG	3A	3,000	7日	3回
②	スミチオン乳剤	1B	1,000	21日	4回

※甲虫類(コガネムシ等)の食害が目立つ場合は、有機リン剤(スミチオン乳剤)を使用しましょう。

※1回目または2回目にピレスロイド系薬剤(RACコード3A)を散布するのが効果的です。

3 インゲンマメゾウムシの防除(金時、手亡)

インゲンマメゾウムシの成虫は、7月下旬以降に出現し8月上旬~9月上旬に発生が見られ、成熟の早い菜豆が被害を受けやすくなります。防除時期は下記を目安にしてください。

- | |
|---|
| ・金時の防除時期: 莢の色が抜け、白莢が見える時期(8月中旬~) |
| ・手亡の防除時期: 子実が大きくなり莢の色が抜け、白莢が見える時期(8月下旬以降) |

表6 インゲンマメゾウムシの防除例

防除回数	農薬名	RACコード	使用濃度(倍)	使用時期(収穫前)	使用回数(以内)
1回目	バイスロイド乳剤	3A	2,000	7日	3回
2回目	ダントツ水溶剤	4A	2,000	前日	3回

※1週間ごとに2回防除する

※莢全体に薬剤がかかるよう、散布水量は多めとする

＜収穫から保管時の注意事項＞

- ① 成熟期以降は早めに収穫する。
- ② 収穫した豆は速やかに出荷し、必要以上の長期間の保管は避ける。
- ③ は種時に余った種子は、適正に処分する。豆の一時保管場所を清掃し、餌となる豆を一年間残さない。

4 マキバカスミカメ・アズキノメイガ防除（小豆）

近年小豆のマキバカスミカメによる子実の被害が発生しています。子実の表面に針で刺したような被害があります。8月中旬に発生する第2世代の成虫が小豆の莢を吸汁加害するので、この時期に防除します。

また、アズキノメイガも防除時期であることから、アズキノメイガ・カメムシ両方に効果のある薬剤を選択します。

表7 マキバカスミカメ・アズキノメイガ防除薬剤例

防除時期	農薬名	RAC コード	使用濃度 (倍)	使用時期 (収穫前)	使用回数 (以内)
8月中旬 (8/15~20頃)	スミチオン乳剤	1B	1,000	21日	4回

5 ハダニ防除（大豆・小豆）

高温乾燥条件で発生が懸念されます。ほ場を観察し、葉のかすれ症状が目立つ場合は防除を検討しましょう。

表8 ハダニの防除薬剤例

作物	薬剤名	RAC コード	使用濃度 (倍)	使用時期 (収穫前)	使用回数 (以内)
大豆 小豆	トクチオン乳剤	1B	1,000	30日※	大豆：3回 小豆：2回
小豆	ダニトロンフロアブル	21A	1,000~ 2,000	7日	1回

※特に小豆は収穫前日数に注意

野菜

<たまねぎ>

今後も引き続きな降雨が予想されています。

変形・分球などにより品質低下を防ぐための根切り作業は可能な限り土壌が乾燥した晴天日に実施してください。

(1)根切り作業

根切りの目的は、変形、裂皮、皮ムケ防止や均一な枯葉、着色促進による品質の向上です。適期に根切りを行い、品質低下を防ぎましょう。

○根切り時期の目安

中生・晩生品種	倒伏揃後 10～15 日
---------	--------------

○「倒伏揃」…茎葉が 80～90%倒伏した時期。

○可能な限り土壌が乾燥した晴天日に行う。

○30℃近くの高温日で日差しの強い日は地上に露出した部分(特に球下半分)に日焼けを生じる恐れがあるため、作業を見合わせる。または、夕方以降に作業する。加えて、枕地を手掘りして寄せる場合は、茎葉で球を覆い長期間放置しない。

○降雨により枯葉が進まない場合は、再度根切りを行う。

(2)根切り～収穫までの防除

降雨により病害の発生が懸念されます。灰色腐敗病や細菌性病害の被害を防ぐため適期に防除を実施し、被害軽減に努めてください。

表 1 根切り～収穫までのたまねぎの防除例

使用時期	薬剤名	RACコード	使用濃度(倍)	使用時期	使用回数	軟腐病	灰色(貯蔵)腐敗病
根切り直後	ポリベリン水和剤	M7/19	750～1,000	収穫3日前	5回以内		○
	Zボルドー	M1	500	—	—	○	
根切り後7～10日後	通常時 トップジン M 水和剤	1	500～1,000	収穫前日	5回以内		○
	多雨時 薬剤例	7	4,000～8,000	収穫前日	4回以内		○
	(いづれか1剤)	7	1,000～1,500	収穫前日	3回以内		○
	パレード20フロアブル	7	2,000～4,000	収穫前日	3回以内		○
—	Zボルドー	M1	500	—	—	○	
収穫前日	リベロ水和剤	3	2,000	収穫前日	3回以内		○

(3)収穫の適期実施

長雨等により収穫が遅れると泥の付着や黒シミの発生等により外観品質が低下します。計画的な根切りを行うとともに、根切り後は茎葉が枯葉したら早めに収穫を行ってください。

- ・肌腐れ等の障害球が混入しないよう収穫前に除去してください。
- ・タッピングは首部が十分乾燥してから行ってください。
- ・収穫後のコンテナは、搬出しやすい排水良好な場所で風乾してください。

(4)苗床における緑肥のすき込み

緑肥をは種した苗床は、出穂始までにすき込んでください。十分に分解させるためには2～3回の土壌混和が必要です。また、土壌混和後は、必ず土壌診断を実施してください。

(5)本畑の緑肥栽培

早生品種のほ場では、収穫後に緑肥を栽培して地力維持と病害低減を図りましょう。後作緑肥にえん麦野生種を栽培する場合、可能な限り早めには種してください。は種が9月になる場合は、は種量を15～20kg/10aと通常よりやや多めにしてください。

<ながいも>

8月15日現在の作況調査では、いも重・茎葉重とも平年を上回り、生育は非常に良好です。

(1) アブラムシの防除

アブラムシの発生が確認されています。必要に応じて防除してください。

表2 アブラムシの防除薬剤例

薬剤名	RACコード	使用濃度(倍)	使用時期	使用回数
オルトラン水和剤	1B	1,000	収穫45日前	1回以内
モスピラン顆粒水溶剤	4A	4,000	収穫7日前	3回以内
アディオン乳剤	3A	2,000～3,000	収穫7日前	5回以内

(2) トレンチャー溝の陥没

降雨によりトレンチャー溝が陥没したほ場は、放置するとその後の降雨で陥没が拡大しやすくなります。形状悪化の原因になるため、通路の土で埋め戻すようにしてください。

(3) 追肥

6月から続く多雨の影響で肥料の流亡が懸念されます。ながいもは1度尻部が丸くなった後に再度肥大（肥料切れ後の肥大）することで奇形になることがあります。

追肥などをしておらず、肥料切れが心配されるほ場では、8月4週目までを目安に硫安等の肥効の早い肥料で窒素量2kg/10a以内の施用を検討してください。

追肥の注意点

- ・この時期の追肥の目的は収量の向上ではありません。窒素切れによる尻部奇形（リング等）の回避を目的としています。
- ・8月中旬以降は新生いもの細胞分裂が旺盛な時期です。この時期の多量の窒素施用は奇形につながる恐れがあります。
- ・収穫直前まで窒素の残存量が多いと、茎葉が黄変せず乾物率の低下につながります。

<にんじん>

(1) 黒葉枯病・軟腐病の防除

降雨により、病害の発生が懸念されます。ほ場を確認し、防除を実施してください。

表3 黒葉枯病・軟腐病の防除薬剤例

薬剤名	RACコード	使用濃度(倍)	使用時期	使用回数	黒葉枯病
Zボルドー	M1	500	—	—	○(500～800倍)
コサイド3000	M1	2,000	—	—	○(500～1,000倍)
カスミンボルドー	24/M1	1,000	収穫 14日前	2回以内	○
銅シン水和剤					
スターナ水和剤	31	1,000	収穫7日前	3回以内	

(2) アブラムシ類の防除

ほ場の状況を確認して、黒葉枯病や軟腐病と同時防除してください。

表4 アブラムシの防除薬剤例

薬剤名	RACコード	使用濃度(倍)	使用時期	使用回数
ゲットアウトWDG	3A	3,000	収穫7日前	2回以内
アドマイヤー顆粒水和剤	4A	10,000	収穫3日前	2回以内
マラソン乳剤	1B	2,000~3,000	収穫14日前	4回以内

(3) 追肥

肥料切れは、根部肥大の抑制や黒葉枯病の発生を助長します。必要に応じて追肥を行ってください。

<レタス>

病害では軟腐病、腐敗病、すそ枯病などに注意するとともに、害虫では引き続きナモグリバエ、アザミウマ、アブラムシなどの防除を適期に行ってください。

※薬剤については、「令和4年度農作物病害虫防除基準」を参照。

(1) ベと病の防除

秋に向けてベと病が発生しやすくなります。予防防除を実施してください。

表5 レタスベと病の防除薬剤例

薬剤名	RACコード	使用濃度(倍)	使用時期	使用回数	注意事項
Zボルドー※	M1	500	—	—	予防
ダコニール1000	M5	1,000	収穫14日前	3回以内	予防
アミスター20フロアブル	11	2,000	収穫7日前	4回以内	予防・治療
ランマンフロアブル	21	2,000	収穫3日前	3回以内	予防
レーバスフロアブル	40	2,000	収穫7日前	3回以内	予防・治療

※クレフノン200倍を加用する。

<キャベツ・はくさい>

コナガの防除は、継続して行ってください。コナガは薬剤抵抗性がつきやすいため、同一系統殺虫剤の連用は避けましょう。特にジアミド系薬剤(RACコード:28)は道内でもすでに薬剤抵抗性をもつ個体が確認されているため、できる限り1作型に1回の使用にしてください。

病害では軟腐病とべと病、キャベツでは株腐病に注意してください。

※コナガおよび軟腐病の薬剤については、「令和4年度農作物病害虫防除基準」を参照。

(1) キャベツ・はくさいのべと病防除

べと病は低温となる秋に向けて発生しやすくなります。適期に防除を実施してください。

表6 ベと病の防除薬剤例

薬剤名	RACコード	作物名	使用濃度(倍)	使用時期	使用回数
ダコニール1000	M5	キャベツ	1,000	収穫14日前	2回以内
		はくさい		収穫7日前	
ランマンフロアブル	21	キャベツ・はくさい	2,000	収穫3日前	4回以内
レーバスフロアブル	40	キャベツ・はくさい	2,000	収穫7日前	3回以内

(2) キャベツの株腐病防除

結球～収穫期に降雨が続くと発生しやすくなります。

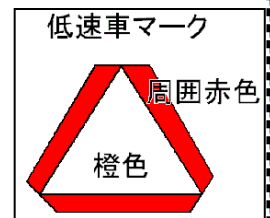
表7 キャベツ株腐病の防除薬剤例

薬剤名	RACコード	使用濃度(倍)	使用時期	使用回数
リゾレックス水和剤	14	500~1,000	収穫7日前	3回以内
アミスター20フロアブル	11	2,000	収穫7日前	4回以内

多忙な農繁期における農作業事故防止に努めましょう！

基本事項を守り、機械による事故に注意しましょう。

- 1 トラクタ発進・P T O始動時は、クラクションなどを鳴らし周囲に合図する。
- 2 機械の調整・整備時（つまり物除去等）は必ずエンジンを止める。
- 3 機械の飛び降り・飛び乗りをしない。
- 4 作業機を上げ点検する時やつまり物を除去する時は、作業機の下降を防止するため「固定脚」や「かませ木」を用い下降防止に努めます。
- 5 夕方や夜間に公道を走行する時は、車幅灯を取り付ける、早めの合図、低速車マーク・反射シールをはるなど、トラクタの位置や作業機の大きさを知らせるようにします。



収穫残さのほ場焼却を避け、堆肥化しましょう

土壌診断を活用しましょう

土壌診断を実施し、適切な肥料選定をすることで、養分バランスの適正化とコスト節減に活用しましょう。

特にリン酸・カリの蓄積が進んでいるほ場が多い傾向にありますので、土壌診断に基づき、適切な施肥設計を行いましょう。

※生育期間中でも、畝間から土壌サンプルの採取は可能です。